



志石軒五癖論五

1277  
5  
透13





志道新五癖論卷之五

邪開之論

さき下夫婦を所ての業は外にふ邪をあり  
まも邪用をそくしては意も情も心もふも物  
たりしをもある双紙もも流の意も夫婦をも有  
若つてまも身を果れ夫志知る人といひしは  
よあまもも先業人まも同もも志のたぬまも  
心也つてし人の目類か思へるもたぬしは  
ふんの間の子朱のこもか思へるも志の味も  
つまもたぬ子まももはなをむまかぬ人ありぬ



ふも仙巻へ先所をゆるむとふ浪ちり来  
程あつとあふてい女郎のあまの何うもこれ  
てか命もたしお程のことも少いうえ事とて  
へ君まをる男のたふしあまをたふしあまの程  
これよあまお底しと程まも上りてしとわめん  
上まはましとてわい付らまると大あまのつりあし  
とあまはあまのいまを知らしけりし程をま  
女の方へまけしあまのしを命もまのわし  
ましくあ切のあまをい候もわのわらわあま  
か下のあつと何と先所一つをいふ男をい何

何んあんたんとまあり母あまのわらわしは  
あつとま上りてはあまのまをいけりてま  
あまの利まのまもあまの女もいりて  
まのいまをい下命しけあまをいしとわらわ  
まのいまをい我あまのあまの男は利はわら  
まのいしとあまの程あまのまをいしとあま  
まのいまをいあまの根性下まをいしとあま  
あまのいまをいあまのあまをいしとわらわ  
あまのいしとあまのあまのあまのあまのあ  
まのいしとあまのあまのあまのあまのあ



ち取れる約少母のこ好らるるこよ中下の解  
りて城治り菊まりのむきこ拉えりまろく  
明りてめんこもまむけり席の並服うよる那  
まよ利口あま那あまよ東とゆらのある所  
二面の千を係とゆきゆの河に小商人今改令あ  
内治にお應とゆきゆをら女房のふく  
り仙傳とゆきゆ金傳とゆきゆんちとゆき  
志やんとゆきゆあゆきゆのり斗利とゆ  
きゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆ  
たゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆ

つくやとゆきゆ女おまのきこ中とゆきゆゆき  
五六のまろまろゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆ  
ゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆ  
何やら不度ゆきゆ通ひ十を係ら女房とまの  
不男とまのまのまのまのまのまのまのまの  
アのわきゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆ  
ゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆ  
今一度こまのたれ三四五度下重まの何ゆき  
ぬ十を係ゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆ  
ゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆゆきゆ

そのしるしをまわつてあはれふ二人のまを何  
ろしき十巻のふふとをまきしにねの直飛虎の  
はたき行ひしめと程に内をききつけやまをど  
てあつた屋敷のあつたハ陽るまのむらぐとあを  
と一巻のまききくぬが因果あつたアとの同  
ちと殿をいつて城ごとくうへへびしをききし  
あんどんをききけとんねいらたやと帯とま  
阿の先は紙吸りやを解しとまきくしとまき付  
女房のあやしとまきしとまきねとちんちんび  
雪のまきへえおしとまきしとまきねとちんちんび

牡丹へあつりしとまきしとまきねとちんちんび  
しとまきねとちんちんびのてんちんちんちん  
えとまきねとちんちんちんちんちんちんちん  
あつりしとまきねとちんちんちんちんちん  
らつりしとまきねとちんちんちんちんちん  
しとまきねとちんちんちんちんちんちんちん  
とまきねとちんちんちんちんちんちんちん  
うましとまきねとちんちんちんちんちんちん  
かまきねとちんちんちんちんちんちんちん  
しとまきねとちんちんちんちんちんちんちん



形くゝよの太くゆを想を心まをところのやりく  
し程を飛くくきせめりあふからあふく  
是軍の事とや子以くし隠れ居る人ん心  
主十を深をを虫男の上へり心なる袖も  
まのむくくしむく見をまげる心を  
付けまづ女房をのりまき後手すくあけ  
二階の上ををつけをくか男のむくし流る又  
以の何んも汗一命をく甘味を南  
妻はまを祝と紙ををく女男の祝まを  
物くく行かゆく飛づけハ灯をくを  
あ

甲乙と澄文をふまき志く免をを  
ふをを別つらんを男城ををんを  
恙と飛くすつら此内をををく環  
丁からけぬの男を衣裳并く心かたお  
とくしや改免事付を志を免んを  
一袖を志く免んかくく紋所を五所  
羽をを信ちく免んかくく白お免んか

襲一首あり

我志の信戸とくし海を水也  
并れゆくまの梅すくく

お母の千代子、女房のあつと云々を  
お母の千代子、女房のあつと云々を

下志ハ大業大...  
何右の和...  
中法法法...

月日

何所のおまけ  
十 乞情

長久保 殿

と志の宛中...  
と志の宛中...

又ぬ...  
かみ妻...  
お法...





を飛ぶ麻をのし出たは後流子かゝるんち  
物并るかゝるよふ事理くつてあらそか  
くやまなをぬきも見ておれしと邪言きま  
はるは上人の中まふれしこころあぢんのか  
らぬもの花女を水かけ庭のまへへ籠居し  
とるよりやう程あおうしよと内流まけい  
しふやつまきせんも流子様よりあうとわ  
しやや少をれしとるは後流子とのけあ  
る上人と七福人をいふあはれしよ  
をときめておれ見まはるまの流だん

たりまづおちやしぬぬいぢや  
とてわけてまうけつるま  
十七八のころも辨天のあはれ  
なまがたしとね花へま  
店へ引き寄せをさす様の流子  
むんの江戸の鯛さうな  
さの隠れを見入るる  
くしと上人もさう  
縁寿金のたの目をも  
は寿老人もあはれしよ

丁男もたれど人を有うかかぬのまじく〜れ  
よびたの事よりいふ天の邪息〜よお娘も  
あつむ〜と海よりとをわく間口させま〜りをら  
法ふあ村〜百足をちをひの足子をとらん下  
有う〜らるい毘沙門天〜と心〜と〜と〜と〜と  
ま〜と七福神〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
の〜と有うとあ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と海〜と柳〜とを信形〜と女房〜と疎〜とあ〜と邪  
〜と許〜と先〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜とあ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

よ〜と〜と一生や先切〜とた〜とぬ事〜とか〜と候〜と  
只〜と先〜と成〜と考〜と〜と〜と加減〜と〜と有〜とた〜とれ〜とぢ〜とん〜と思  
え〜と〜と一心〜と〜と娘〜とあ〜とま〜とは〜と後〜とあ〜とも〜と有〜とわ〜とま〜とま〜とあ〜とま〜とハ  
た〜と〜とら〜と柳〜と〜と〜と端〜と女〜とあ〜と花〜と〜とま〜とた〜と心〜と思〜とあ  
は〜と看〜と板〜と玉〜とを〜と〜と〜と抱〜とを〜と〜とま〜とま〜と〜と〜と〜と  
あ〜とま〜と先〜と心〜とを〜と使〜と〜とま〜とた〜と心〜と何〜と方〜と成〜とま〜と〜とま  
や〜とらん〜と我〜と悦〜とを〜と満〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
深〜と〜と能〜と〜と子〜とを〜とま〜とむ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
へ〜と流〜と〜とた〜と〜と虚〜と人〜とあ〜とま〜と志〜とを〜とら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
は〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

桑、しほ、梅、え、た、れ、の、む、ご、つ、り、ま、ま、風、ま、鳥  
 け、餅、ま、ま、の、し、く、お、ま、か、れ、し、は、形、中、あ、人、何  
 う、の、お、ま、れ、ま、同、ハ、後、し、く、男、根、盛、り、ハ、り、  
 頭、は、露、ま、ま、と、は、は、く、り、整、ま、し、う、く、ま、ウ、ン、ク、ハ、ト  
 シ、陰、裏、の、梅、お、ま、ま、め、つ、果、し、ま、ま、つ、り、  
 笑、ぬ、睡、れ、を、表、怪、の、ま、し、く、は、ひ、を、ま、馬、靴、大  
 き、熱、ま、ま、の、め、ぬ、清、ま、ま、ま、は、ち、の、子、歌、り、  
 と、く、も、十、五、六、の、新、屋、を、つ、り、割、る、ま、ま、ま、ま、  
 とも、紅、蓮、ち、紅、蓮、の、氷、を、割、り、力、那、ま、ま、や、あ、と  
 生、ま、ま、ま、人、と、破、る、ま、ま、こ、の、内、子、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

行舟の諷れ、浪、ま、新、泡、ま、木、城、ぬ、割、り、  
 と、ん、と、ん、り、と、く、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 度、か、

志道新五癖論 卷之五大尾





